

## ====支部だより====

### 東北支部「気象講演会」開催のお知らせ

日本気象学会東北支部は、2018年度東北支部気象講演会を、山形地方気象台と共催で次のとおり開催します。多数の参加をお願いいたします。

1. **開催日時**：2018年11月5日（月）  
13時30分～16時00分（13時00分開場）
2. **会場**：やまぎんホール（山形県民会館）地下講堂  
（〒990-0042 山形市七日町三丁目1番23号）
3. **テーマ**：「雪と生きる～山形の大雪、いまとこれから～」  
研究の最前線から山形県の大雪災害と変動する冬の気候を考える

講演1 小杉健二（防災科学技術研究所  
雪氷防災研究センター雪氷環境実験室長）  
「山形県の積雪と災害について」

#### 【要旨】

山形県内の積雪の記録をたどると変動が大きい中で、1980年代後半から1990年代にかけては少雪の傾向が続いたが、2000年を過ぎた頃から大雪の冬がしばしば現れている。県内の積雪は、雪質の異なる多くの層が積み重なっている事が多く構造が複雑という特徴をもつ。こうした山形県の積雪の量と質についてご紹介した上で、雪による災害の発生状況や事例を紹介し、積雪状況との関わりについて述べる。そして、冬季における災害防止のための今後の課題をまとめる。

講演2 川瀬宏明（気象研究所主任研究官）  
「地球温暖化によって日本の雪はどうなるのか？」

#### 【要旨】

産業革命以降、温室効果ガスの増加に伴い、世界の気温は上昇してきている。これにより、世界の降雪や積雪、氷河等は減少しつつある。ただ、日本では近年、雪の多い年もあり、2017/18年冬季は日本海側の一部で記録的な大雪となった。今後、地球温暖化がさらに進行すると、日本の降雪や積雪、ドカ雪はどのように変化していくのだろうか。本講演では、地球温暖化の基本的な話から最新の雪の将来予測研究まで幅広く紹介したい。

4. **参加費**：無料

5. **問合せ先**：日本気象学会東北支部事務局

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-15

仙台第3合同庁舎

仙台管区気象台気象防災部防災調査課内 瀧上隆雄

TEL：022-297-8162 FAX：022-297-5615

E-mail：tohoku-admin@tohoku.metsoc.jp

詳しくは東北支部ホームページをご覧ください。過去の支部講演会の資料等が掲載されています（<http://tohoku.metsoc.jp/lecture/lecture.html>）。

その他、ご不明の点は事務局までお問い合わせください。